

みんな育てる福祉のこころ



1人は万人のために 万人は1人のために



第556号

発行日 毎月20日

定価一部 15円

※会員の購読料は
会費の中に含む

(一社)佐賀県労働者福祉協議会 佐賀市神野東四丁目7番3号 TEL 0952(32)1243
ホームページアドレス: <http://saga.rofuku.net/>

発行人 青柳 直
編集者 江頭 一哉

賀正



2017年 あけましておめでとうございます。

旧年中は、労福協・各事業体の諸活動にご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本年も労働者福祉運動と自主福祉事業の基盤強化及び運動の継承を図るため鋭意努力してまいります。また、労福協の勤労者旅行会についてもご愛顧いただきますようお願いいたします。

皆さんと共に、「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現に向かって前進していきましょう。



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|-------|------|
| (社)佐賀県労働者福祉
協議会役員一同 | 有田地区 | 藤津・鹿島地区 | 杵島・武雄地区 | 伊万里地区 | 唐津・東松浦地区 | 小城・多久地区 | 佐賀地区 | 神埼地区 | 鳥栖・三養基地区 | 監事 | " | " | " | " | " | " | 理事 | 専務理事 | 専務理事 | 副理事長 | 理事長 | | | |
| | 会長 草場 薫 | 会長 田中 洋一 | 会長 上田 哲也 | 会長 川口 幹夫 | 会長 渡部 浩治 | 会長 重軒 泰生 | 会長 鶴崎 公就 | 会長 田中 大介 | 会長 吉丸 厳 | 米倉 法之 | 車田 正彦 | 瀬光 宏幸 | 市川 智博 | 二十歩 浩一 | 土田 誠也 | 西村 洋介 | 田中 啓善 | 小副川 高朗 | 宮崎 英人 | 江頭 一哉 | 森田 末喜 | 相川 司 | 宮島 康博 | 青柳 直 |

2017年労福協年頭のあいさつ



佐賀県労働者福祉協議会
理事長 青柳 直
日本労働組合総連合会・佐賀県連合会
会長 青柳 直

新年明けましておめでとうございます。会員・組合員ならびにご家族の皆様におかれては、素晴らしい年を迎えられたことと思います。

昨年を振り返ると、「家族の安泰と平和な暮らし」が果たして出来た年だったでしょうか。国内においては、平和への危惧や、多くの予期せぬ自然災害の発生、そして社会保障制度の改悪など国民生活に関わる様々な法案が数の力で残念ながら成立してきました。くわえて、一流といわれる会社で若い女性が長時間労働の末、命を自ら断つという痛ましい事件が起きてしまい長時間労働問題も社会的な問題になってきています。

一方、昨年8月開催のリオ・オリンピックでは前回ロンドン大会を3個上回る41個のメダルを獲得し、金メダルは東京オリンピックと並ぶ12個を獲得しました。

そして、選手たちの活躍は多くの国民に感動と勇気を与え、特に男子400Mリレーでの銀メダル獲得は鳥肌ものでした。2020年、東京オリンピックに向けて更なる飛躍が期待される結果となった大きな要因は、「チーム力」「組織力」、さらには「多くの方々の影の支えや見えない

力」が働いたものだと感じています。

また、昨年も九州をはじめ日本列島、さらに世界各地において多くの自然災害に見舞われました。特に、4月に発生した熊本・大分を中心とする地震では熊本市を中心に甚大な被害をもたらしました。我々は今日、自然災害はいつでもどこでも現実として起こるものだと気づかされ、そして一人ひとりが災害時の備えの大事さを学びました。被災地の復旧・復興には相当な時間と労力がかかると思います。引き続き、被災地に寄り添いながら支援活動に取り組んでいきたいと思っています。

さて、これから本格的な少子高齢化社会を迎え、労働力が不足していきます。今社会に必要なのは人と人が助けあう仕組み「共助」だと思っています。まさに、労福協運動そのものであります。今年、大政奉還から150年、来年は明治維新から150年を迎えます。坂本竜馬も、当時「今、行動を起こさなければこの国は滅びてしまう」「日本を今一度せんたくいたし申候」と有名な一説を述べています。まさに、労福協として連合をはじめ関係団体が手を携えて「社会を変える」、その時期にきているのではないかと思っています。

これからもそうですが、「家族の安泰と平和な暮らし」について引き続き、その充実を求めて事業を進めて行きます。さらに、人と人のつながり・絆が大切にされる社会に向けて取り組みを推進していくことが、明日への希望に繋がると信じています。

本年も労福協事業の取り組みに対し、これまで同様のご理解とご協力をお願いし、年頭の挨拶と致します。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

2017年 年頭挨拶



労働者福祉中央協議会
会長 神津 里季生

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、中央労福協の諸活動、とりわけ奨学金問題において多大なご協力をいただき、ありがとうございました。お陰様で、約304万筆の署名が世論のうねりをつくり、政府は給付型奨学金制度の創設に向けて動き出しました。一歩前進ではありますが、想定されている対象者や金額はあまりにも小規模と言わざるを得ません。今後の予算や法案の審議で少しでもより良い内容に改善し、将来に向けて拡充していく道筋をつけていくことが必要です。そのため、アピールへの賛同を広げていく取り組みや当事者の声募集に、引き続きご協力をお願いします。

この機を逃さず、みんなの力を結集し、何としても成果を勝ち取りましょう。そして、若者の未来を支え

持続可能な社会とするために、貸与から給付へ、有利子から無利子へと、本来の奨学金への流れを確かなものにし、既存の返済困難者の実情に応じた救済措置や制度への改善、学費を含めた教育費負担の軽減につなげていきたいと思います。

いま、格差と貧困の拡大が世界中で大きな問題となっています。一部の者が富を独占し、中間層も分解され二極化が進行しています。加えて、異質なものを排除し、多様性を否定するような動きも強まり、社会の分断と亀裂をもたらしつつあります。日本においても、あらゆる世代・層で格差・貧困が拡大し、孤立が広がっています。今こそ、「連帯・協同」に価値を置く協同組合や労働組合が手を携えて真価を発揮し、分断社会を変えていかななくてはなりません。

中央労福協は引き続き、格差・貧困の是正にむけた政策・制度の改善をはじめ、誰もが排除されない社会に向けた生活困窮者自立支援制度の定着・発展や、働く人・地域の人たちの拠り所としてのライフサポート活動の深化・機能強化、協同事業や労働者福祉運動の基盤強化に取り組んでまいります。

「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」に向けて、ともに前進しましょう！

2017年「年頭のご挨拶」



九州労働金庫佐賀県本部

本部長 相川 司

皆様はすばらしい新しい年をお迎えることとお慶び申し上げます。

こういうご挨拶を申し上げますと、皆様方の中には「何を呑気なことを」とお思いの方もいらっしゃるかもしれません。

ご承知の通り、昨年の私たち生活者を取り巻く環境はますます変化の激しい時代を迎えました。日本は雇用問題、景気問題、年金問題、教育問題、食の安全性の問題など、難問が山積しておりますが、まずはこうして無事に新しい年を迎えることができたことを感謝する気持ちだけは大切にしたいと思っております。

こうした大変な時代はそのまま九州ろうきん佐賀県本部にも当てはまることで昨年は厳しい結果となりました。そ

の結果を跳ね返すためにも、改めて歴史を振り返り、労金の良さや伝統をかみしめ、私たちの自信につなげて行きたいと考えています。

もともと正月は、お供えをし、歳神様(としがみさま)をまつる儀式でした。この一年の豊作と、家族の健康を祈るための儀式です。正月を迎えることこそが一つの区切りであり、昔の人は正月を迎えると、無事に新しい年を迎えたことを心から喜び、「数え年」といって一つ年齢を重ねたものです。

そのような意味からも、厳しい中においても、この新しい年を皆さまと一緒に迎えられることは、率直に感謝したいと思えます。

私たち、九州ろうきんが取り組む「しあわせ創造運動」は厳しい時代を乗り越えるためのひとつの方策と自信を持っています。2017年、更なる運動の拡大を図る所存です。是非、皆さまのご支援とご協力をお願い致します。

皆様にとりまして、この新しい年がより善き年でありますよう心から祈念いたしまして、私からの新年のご挨拶とさせていただきます。

2017年「年頭のご挨拶」



全労済佐賀県本部

本部長 宮島 康博

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれては、輝かしい新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

私たちは、2011年3月の東日本大震災の被災を教訓として、長く心に留めておかねばならないと思うなか、この大震災から5年を経過したばかりの2016年4月に、熊本地震の大惨事に直面しました。

全労済としましては、被災状況に迅速に対応すべく全国から職員の現地派遣を展開し、被災家屋の現場調査に全力を挙げてきたところです。今の時点で、被災件数24,506件(現場調査完了率99%)で、見舞金・共済金の支払いについては130億円を超えました。佐賀県内におきましては、被災件数は204件(現場調査完了率90%)・共済金等約4千5百万円を支払ってきました。

改めて、被災された方々にお見舞と1日も早い生活再建をお祈りいたします。

さて、佐賀県本部の事業関係について申し上げます。

2016年度は堅調に推移しており、組合員および協力団体の皆様に感謝申し上げます。

昨今の、自然災害の多発に起因する被災の実情を反映して、「住みえる共済」の火災共済と自然災害共済が大きく伸びているところです。特に、自然災害共済においては大型タイプが飛躍的な伸びになっており、被災と保障に大きな関心があるものといえます。組合員の皆様には、保障内容が必要とする規模に見合っているのかの自己点検を呼びかけています。

また、防災・減災意識の向上に向けた取り組みとして、「防災カフェ」も展開しています。ご家族で楽しみながら、子供さんにも馴染みやすい内容になっていますので、声をかけていただければ幸いです。

最後になりましたが、全労済は組織改革の途上にあり「佐賀県本部」の名称としては、2016年度で長い歴史を終えることとなります。この間のご支援に感謝申し上げ、2017年9月に発足する「佐賀推進本部」に変わらぬご厚情をお願い申し上げ、年頭に当たつての挨拶といたします。

年頭のご挨拶



佐賀県生活協同組合連合会

会長 喜多 裕彦

新年明けましておめでとうございます。

熊本地震、台風、再び東日本大震災を思い起こさせる福島沖の地震、津波と、昨年も自然災害に翻弄された感の一年でした。熊本地震にあたっては、県内各生協が支援物資の提供、現地被災者への「炊き出し」「健康相談」支援、募金活動など、いち早く被災地支援に取り組みました。佐賀県からの緊急要請に応えた消防援助隊への物資提供が、10月に県知事と県内5つの消防本部との協定締結に結実しました。佐賀での大規模災害も想定して、行政や社協などと連携して役割を果たせるよう、今後も取り組みが求められます。

アベノミクスの失敗に、消費支出が減少し、介護・医療・年金等の切り捨てで、国民の生活は厳しさを増し、貧

困と格差は広がっています。生協は商品やサービス提供の事業で組合員の生活を守ることを中心にしながら、家計相談、地域見守り活動、今後の介護を左右する地域包括ケアシステムへの対応など、地域に貢献する活動を継続していきます。さらに組合員が参加して、助け合いの力で、暮らしを守る運動を広げましょう。

これらの事業や運動の前提である平和を守ること、引き続き重要な課題です。強行された「安保法制」に基づき、自衛隊の武器使用を解禁した南スーダンPKOが始まりました。佐賀県では、平和利用が前提であるはずの佐賀空港にオスプレイが配備されようとしており、選挙で平和と憲法を守りたいという市民の力が動き出したにも関わらず、国会内では改憲勢力が3分の2を超える事態が生まれました。「平和とよりよき生活のために」を理念とする生協の運動を継続しましょう。

これらの取り組みを通じて、佐賀県民と生協組合員の皆さまの「元気と笑顔」が広がるよう、生協としての貢献度を高める1年にしたいと思えます。

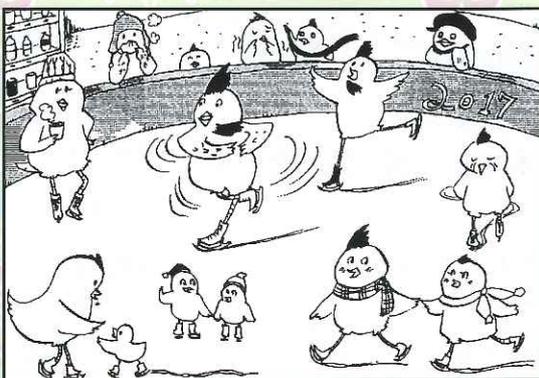
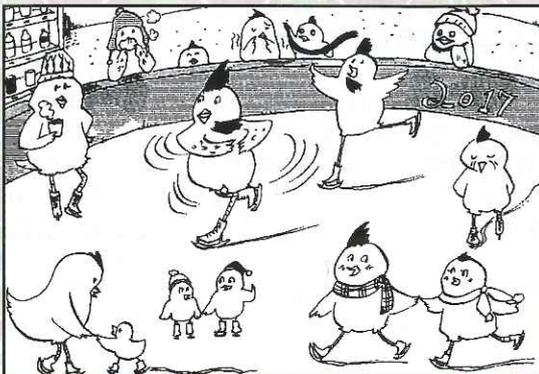
「言いたい劇場」

小菅りや子



下の絵は上の絵をベースに考えて「7つの間違い」があります。それはどこでしょう。次の①～⑧のうち、間違いの全ての番号をご記入ください。

- ①自販機の2段目の真ん中がミニサイズに
 - ②右奥の帽子
 - ③奥で滑っているニワトリの靴の色
 - ④右側の滑った道筋
 - ⑤手前右のマフラーの角度
 - ⑥2匹のヒヨコの立ち位置が逆
 - ⑦手前左のニワトリが手を離している
 - ⑧左奥のニワトリが持っているカップ
- ただし、印刷上の汚れやかすれ、スクリーントーンの濃淡は間違いとはしません。



旅行会

お年玉クイズ 7つのまちがいを捜し

こたえがわかった方は官製ハガキに『こたえ』と住所(〒)氏名・年令・自宅の電話番号・勤務先を明記のうえ左記のところにへお送りください。お年玉として「宿泊・食事引換券」を一名様、「図書券」を十名様に進呈いたします。(なお、×切日は一月二十七日とし、正解者多数の場合は抽選のうえ決めさせていただきます。)

▽〒840-0804 佐賀市神野東 四丁目七-三 勤労者旅行会

▽協定旅館 二月号紙上

- 【佐賀】千代田館
- 【川上】龍登園
- 【唐津】シーサイドホテル
- 【嬉野】華翠苑・和楽園
- 【武雄】京都屋・武雄セントურიホテル・春慶屋

「西(鳥)のつく諺……」

鶏助

【読み】 けいろく
【意味】 大して役には立たないが、捨てるには惜しいもの。

鶏群の一鶴

【読み】 けいぐんのいつかく

【意味】 凡人の中に傑出した人が混じって、きわだつて見えるたとえ。

鶏口となる牛後となる勿れ

【読み】 けいこうとなるぎゅうごとなるなかれ

【意味】 人に従属するよりも独立した方がよいというたとえ。

鶏を割くに鶏んぞ牛刀を用いん

【読み】 にわとりをさくにいずくんぞぎゅうとうをもちいん

【意味】 小さなことを処理するには大がかりな方法を用いる必要はない、という意味

家鶏を厭いて野雑を愛す

【読み】 かけいをいといてやちをあいす

【意味】 珍しい物を珍重する愚を戒めた言葉

牝鶏の臍す

【読み】 ひんけいのあしたす

【意味】 女が勢力を振るうことのとたとえ。

函谷関の鶏鳴

【読み】 かんこくかんのけいめい

【意味】 奇策を用いて危機を脱出すること。

2017



【とり】 西【】 十二支の第一の番目。ゆう。年や日に用いるほか、方角では西。時刻では午後六時ごろ、また、その前後二時間の呼び名とする。